

2023年度の既卒新入職員研修を開催しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2023年7月10～11日の2日間に渡り、他の病院・施設から入職してきた既卒新入職員を対象とした研修を実施。健育会グループの歩みや歴史、MVVなどについて理解を深めてもらいました。

7月10日、11日、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて、2023年度の既卒新入職員研修を開催しました。10日は病院職員、11日は介護職員に向けての研修です。

既に他の病院や介護施設で経験を積んできた新入職員に向けた研修として、健育会グループの特徴やMVVについて私からも直接説明を行い、グループの方向性をしっかり伝えました。



はじめに70周年記念式典で放映したグループの紹介ビデオを見てもらい、健育会グループの歴史や歩みを再確認。その後、グループの概要や経営システムについても説明しました。



私から理事長講話としてお話しした内容をご紹介します。



皆さんは、医療人として既に素晴らしい経験をお持ちですから、今日の研修では健育会グループがどういう組織であるか、そして健育会のミッション、ビジョン、バリューと病院理念が皆さんの仕事といかに関連しているかをもう一度再確認してほしいと思います。

30年前、私が健育会の理事長になるにあたり、今後人口が減少して衰退していく日本社会において、革新的な改革で社会に貢献していく組織が必要だと考えました。そのために、どんな価値を生み出せばいいのか？と考えて生まれたのが、「光り輝く民間病院グループ」という健育会のミッションです。



健育会のミッションを考えた25年前、当時の中曽根元総理は膨大な赤字を出していた旧日本国有鉄道に危機感を持ち、民営化を推進して現在のJRが生まれました。これが第一回目の民活です。一方日本は戦後復興で国の補助金を使い、国力を維持するために膨大な国債を増やしました。そこで小泉元総理はこのままでは日本経済が立ち行かなくなると考え、郵政民営化を敢行したのです。

そうした民間活力の動きの中で、政府の規制改革委員会が出した答申に「光り輝く日本」、「医療も規制改革して民営化すべき」という言葉が登場しました。

当時、医療は人の命を預かる仕事だから利益が出なくても仕方なしとされ、国公立病院は赤字続きでした。北海道の夕張市では、夕張市民病院の多額の負債で財政破綻まで起こりました。そこで私は、医療も効率化しなくてはならない、そのためには民営化するべきだと考えます。健育会はその先端を走る民間病院となり、黒字を出すだけでなく、効率的で素晴らしい医療を提供する。それこそが「光り輝く」ことだと考えたのです。まさにこれが我々の使命です。

2008年になると本当に医療崩壊が叫ばれはじめ、国公立病院の民営化は必要不可欠となり、これまでに全国で何十もの国公立病院が民営化されてきました。

では、民間と公立の違いとは何か？ それは、素早い決断とチャレンジです。公の組織では、いまだに新しいことに対して「前例がない」「責任は誰が取るのか」ということが問題になります。民間はその逆を行かなくてはなりません。健育会では私が全ての責任を取り、素早い決断とチャレンジを可能にしています。



ここで、健育会グループが民間病院として素早い決断とチャレンジを行ってきた、各病院・施設の事例を紹介しました。

東日本大震災で津波に遭い、患者を上階へ避難させて診療を続けた旧石巻港湾病院（石巻健育会病院）と、閉鎖を余儀なくされた近隣の石巻市立病院の事例。過疎地域で「救急医療を断らない」という理念のもと、30年間小児救急まで対応してきた西伊豆健育会病院。慶應義塾大学病院とコラボレーションし、民間病院でありながら教育や研究も行う湘南慶育病院の設立。そしてコロナ禍に、リハビリ専門病院である石川島記念病院をたった1ヶ月でコロナ病棟に切り替え、注目された事例などです。



皆さんは、こうした健育会グループの進むべき方向性を意識した上で、各病院・施設の地域で我々が行うべき医療・介護を考えてください。土地ごとに地域性や経営資源、特殊性は異なりますが、共通しているのは「クライアントの心を豊かにする病院」というビジョンです。

このビジョンは言葉で言えるだけでなく、皆さんが5年後、10年後に自分の病院がどうなっているかを絵に描いたとき、同じでなくてはなりません。それが効率的な病院経営につながっていくからです。

国公立病院の職員は皆、本当に一生懸命動いていますが、「目標とする医療」のベクトルが職員によって違うために、力を消しあってしまうのです。自分たちの理想の病院像とそこに向かって何をすべきかを共有しておくことが一番大切です。

そして「クライアントの心を豊かにする病院グループ」であると世間で認められた時に初めて我々のミッションである「光り輝く民間病院グループ」が認識され、我々のところに公立病院から民営化のお話があるのだと思います。まだ来ていないのは、認知が足りていないから。私も頑張って皆さんとともに世間にアピールしていきます。



ここで大切になるのが、バリューです。「患者さん」に質の高い医療サービス、「ご家族」に安心、「地域」には貢献……と7つのクライアントが存在しますが、これら一つ一つをきちんと満足させることが病院理念の実現に欠かせません。

なかでも患者さんに対する「質の高い医療サービス」についての尺度は、医療人によって異なりますから規定が必要です。患者さんは一人一人バックグラウンドや人間性が違い、求めているものも人それぞれ。相手の求めていることを的確適切に提供できるチーム医療が確立され、チームのそれぞれが自分の役割を理解していることが大切です。

私が考える質の高い病院というのは、大学病院や先端医療を提供する病院ということではありません。そうした高機能病院にも、リハビリ病院にも、それぞれ質の高い病院とそうでない病院があります。必要なことは、チーム医療ができているかどうかです。

ですから自分の働く病院施設の進む方向をよく理解し、チーム医療を実現するためにチームワークを心掛けて情報を共有して欲しいのです。そして上司や病院から求められている自分の役割を全うしてください。皆さんの日々の仕事こそが、光り輝く民間病院を実現し、日本の医療を救うことにつながっていくのです。



また「サービス業としての医療」について、健育会が大切にしてきた「人間の尊厳を平等に扱う」ことの大切さについてもお話ししました。

最後に私から、皆さんに3つのことを約束します。忙しくてもやりがいを持てる職場環境を実現すること。発表会や研究会にたくさん参加していただき、医療人としての使命感を育ててもらうこと。私が全ての責任をとり、安心してチャレンジできる環境を作ること。この3つを必ず約束しますので、皆さん日々の業務に邁進し、やりがいを持ってさまざまなことにチャレンジしてください。